

平成 21 年 6 月 11 日現在

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2006～2008

課題番号：18730120

研究課題名 (和文) 創設期の EFTA とイギリス対外政策の再編、1958～63 年

研究課題名 (英文) The Formation of the EFTA and the Transition of British External Policy, 1958-63

研究代表者

小川 浩之 (OGAWA HIROYUKI)

愛知県立大学・外国語学部・准教授

研究者番号：60362555

研究成果の概要：本研究課題は、創設期の欧州自由貿易連合 (EFTA) を事例として、1950 年代後半から 60 年代前半におけるイギリス対外政策の再編 (帝国＝コモンウェルス、英米関係、ヨーロッパ統合といういわゆる「三つのサークル」との関係の再編) の試みの意義と限界について分析を行うものである。その結果、2008 年に名古屋大学出版会から出版した著書『イギリス帝国からヨーロッパ統合へ―戦後イギリス対外政策の転換と EEC 加盟申請―』をはじめとする研究成果が得られた。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	1,100,000	0	1,100,000
2007 年度	1,000,000	0	1,000,000
2008 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,700,000	180,000	2,880,000

研究分野：イギリス対外関係史

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：政治学、西洋史、経済史

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究代表者は、本研究課題申請までの時点で、マクミラン保守党政権期 (1957～63 年) におけるイギリス政府の対外政策の再編の試みについて、1961 年に行われた第一回目の欧州経済共同体 (EEC) への加盟申請をその帰結点と位置づけ、イギリス政府文書、アメリカ政府文書を中心に用いて実証的な研究を行っていた。

(2) その際、特に、イギリス政府の対 EEC 政策と「英米特殊関係」(Anglo-American special relationship) との関連を第一の柱、

イギリスとコモンウェルス諸国との関係 (イギリスとオーストラリア、カナダ、ニュージーランドとの通商協議および南アフリカ共和国のコモンウェルス脱退をめぐる議論) を第二の柱に据えて分析を行った。

(3) そうした状況で、イギリス政府の第一回 EEC 加盟申請に至る政策転換についてより幅広く理解を深めるため、対 EEC 政策のみならず、西ヨーロッパ内部で EEC と並立していた EFTA に対する政策、さらにはイギリス側のみならずコモンウェルス諸国側の政策についても実証的に研究を進めること

が必要であると考えられた。

2. 研究の目的

(1) 本研究課題においては、従来の研究に続いて、設立期(1958~63年)のEFTAをめぐるイギリス政府の政策、さらにはイギリスとコモンウェルス諸国との関係を実証的に分析することによって、第一回EEC加盟申請に至るイギリス政府の政策転換とその後のEEC加盟交渉の挫折(1963年)の原因をさらに明らかにすることが目指された。

(2) 本研究課題では、それらと並び、マクミラン政権期のイギリス対外政策の再編の試みとその限界についてより広い視野から理解を深めるため、第二次世界大戦後のイギリス帝国(公式帝国)の解体とコモンウェルスの拡大・変容についても一次文書および二次文献を広範に用いて分析を行うことが目指された。

3. 研究の方法

(1) イギリス国立公文書館(The National Archives, ロンドン)を中心に、カナダ国立図書館・公文書館(Library and Archives Canada, オタワ)、オーストラリア国立公文書館(National Archives of Australia, キャンベラ)、オーストラリア国立図書館(National Library of Australia, キャンベラ)、マレーシア国立公文書館(Arkib Negara Malaysia, クアラルンプール)、香港歴史档案館(Public Records Office of Hong Kong, 香港)など旧イギリス帝国各地およびコモンウェルス諸国の各公文書館、欧州連合歴史文書館(Historical Archives of the European Union, フィレンツェ)、EFTA文書館(Archives of the European Free Trade Association, ジュネーブ)などのヨーロッパ統合を担う国際機関の文書館において、マルチ・アーカイバルに一次文書の調査を行った。

(2) さらに、イギリスとEEC、EFTA、コモンウェルスとの関係などに関する二次文献や報告書・パンフレット、新聞・雑誌記事などの収集・分析を行った。そのため、日本国内のみならず、イギリス、イタリア、カナダ、オーストラリア、マレーシア、香港など世界各地の図書館・図書室を訪問し、事前に所蔵を確認した文献資料のみならず、現地で新たに発見した文献資料(例えば他では入手が困難な各国政府・国際機関の報告書やパンフレットなど)について調査を行った。本研究課題を遂行する過程で利用した主な図書館は以下の通りである。京都大学法学部図書室・経済学部図書室・附属図書館、国立国会図書館、ロンドン大学経済政治学院(LSE)

図書館(英国図書館政治経済学分館)、ロンドン大学コモンウェルス研究所図書館、愛知県立大学学術情報センター図書館、名古屋大学中央図書館、愛知大学図書館、中京大学図書館、アジア経済研究所図書館、ヨーロッパ大学研究所図書館(フィレンツェ)、トロント大学ロバーツ図書館、オタワ大学モリセット図書館、オーストラリア国立大学メンジーズ図書館およびチフリー図書館(キャンベラ)、オーストラリア国立図書館(キャンベラ)、シドニー大学フィッシャー図書館、トゥンク・アブドゥル・ラーマン・プトラ記念館図書室(クアラルンプール)、香港大学図書館、香港中央図書館。その他、ロンドン、トロントの公共図書館も利用した。

4. 研究成果

(1) 第一に、2006年3月に京都大学大学院法学研究科に提出した博士論文「戦後イギリス対外政策の再編と第一回EEC加盟申請への道1955-61年」(2006年11月24日博士号取得)を基礎としつつ、本研究課題において新たに調査を行った文書・資料を加えて加筆・修正を施した著書(『イギリス帝国からヨーロッパ統合へ—戦後イギリス対外政策の転換とEEC加盟申請—』名古屋大学出版会、2008年9月)を刊行した。これは、マクミラン保守党政権期におけるイギリス政府の対外政策の再編の試みとその限界について、マルチ・アーカイバル・アプローチに基づく国際関係史の手法を用いて分析を行ったものである。具体的には、イギリスのみならず、アメリカ、カナダ・オーストラリア・マレーシア・香港など旧イギリス帝国各地およびコモンウェルス諸国、さらにはEEC、EFTA、欧州経済協力機構(OEEC)、経済協力開発機構(OECD)などの国際機関の文書を利用したが、そうした広範な一次文書を用いてイギリスの第一回EEC加盟申請に至る政策転換について多角的に分析を行った研究は、国内外においても類例のないものとなっている。また、そうした成果の一部およびそれを発展させた内容について、同書刊行前の2008年7月13日に名古屋大学法学部で行われた中部政治学会において、「ハロルド・マクミランとイギリス政府のヨーロッパ統合政策、1957年~1963年」として、特に当時の首相であったハロルド・マクミランのリーダーシップに焦点を当てて発表を行った。

(2) 第二に、それらに加えて、イギリスの第一回EEC加盟交渉(1961~63年)についても、EFTA諸国およびコモンウェルス諸国との関係に焦点を当てつつ実証的な分析を行った。2009年1月に刊行された共著に掲載した「第一次EEC加盟申請とその挫折1958-64年—「三つのサークル」ドクトリン

の段階的再編一」細谷雄一編『イギリスとヨーロッパ—孤立と統合の二百年—』(勁草書房)では、第一回 EEC 加盟申請に至るイギリス政府の政策転換について、「三つのサークル」との関係性を軸に簡潔にまとめたうえで、同じく「三つのサークル」の視角(EFTA 諸国、コモンウェルス諸国との関係を重要な要素として含む)から、第一回 EEC 加盟交渉およびその挫折の原因について分析を行ったものとなっている。

(3) 第三に、2009年1月31日には、上記の細谷雄一編『イギリスとヨーロッパ—孤立と統合の二百年—』(勁草書房、2009年)の内容を基礎としつつ、日本とアジアとの関係にも視野を広げたシンポジウム「イギリスとヨーロッパ・日本とアジア—孤立と統合・対立と協調—」(北海道大学にて開催)に参加し、報告および討論を行った。同シンポジウムおよびその内容の一部をまとめた『外交フォーラム』(2009年5月号)に掲載された特集(益田実、小川浩之、吉田徹、潘亮、宮城大蔵、鈴木一人「イギリスは、モデルたりうるのか—地域統合のなかのイギリスと日本—」)を通して、研究成果の一部をより簡明かつ日本との比較も視野に入れた形で、広く社会に向けて発信した。

(4) 第四に、第二次世界大戦後のイギリス帝国(公式帝国)の解体とコモンウェルスの拡大・変容についても、イギリス、カナダ、オーストラリア、マレーシア(旧マラヤおよびサバ、サラワク)、香港、インド、パキスタン、シンガポール、ニュージーランド、南アフリカ、ローデシア、タンザニア(旧タンガニーカおよびザンジバル)、ガーナ、ケニア、キプロスなど世界各地の諸国・地域に着目して研究を行った。その成果は、2009年6月に刊行された「脱植民地化とイギリス対外政策—公式帝国・非公式帝国・コモンウェルス—」北川勝彦編著『イギリス帝国と20世紀 第4巻 脱植民地化とイギリス帝国』(ミネルヴァ書房)に部分的にまとめられている。また、2006年12月2日にイギリス帝国史研究会第35回例会(京都大学芝蘭会館にて開催)において行った発表「「旧コモンウェルス」から「新コモンウェルス」へ—第二次世界大戦後の拡大と制度変化、1945-73年—」のなかで、戦後のコモンウェルスの加盟国拡大と制度的変化について、イギリスを中心とする複数の加盟国政府の政策に着目して中間的な成果を公表した(報告の要旨は、『イギリス帝国史研究会 Discussion Paper』第3号に簡潔にまとめられている)。この分野の研究成果は、平成21年度から新たに採択された日本学術振興会科学研究費補助金若手研究(B)「コモンウェルスと「帝国後」の国

際制度・規範の模索、1963~71年」の基礎となるものであり、今後、さらに実証的、理論的な研究を進めることが目指される。

(5) 第五に、イギリスとコモンウェルス諸国との関係について、政治・外交面および経済・貿易面のみならず、安全保障面にも着目して研究を行った。その際、特にイギリス帝国の解体とコモンウェルスの拡大・変容が、国連を中心とする平和維持活動(PKO)の成立と変容に重要な影響を及ぼしたという事実に着目し、軍事史学会の企画に応じる形で2007年3月に、「イギリス・コモンウェルス関係とPKOの成立と変容—パレスティナ・カシミールからコソボ・東ティモールまで—」(『軍事史学』第42巻第3・4合併号)を発表した(当該合併号は、錦正社から『PKOの史的検証』として単行本として出版された)。また、その内容の一部については、2006年10月15日にかずさアカデミアホール(千葉県木更津市)で開催された日本国際政治学会2006年度研究大会分科会D-7(国連研究)において、「スエズからコソボ・東ティモールまで—PKOをめぐるイギリス・コモンウェルス関係—」として発表した。

(6) 第六に、日本におけるこれまでの外交史研究の成果と課題について、戦後ヨーロッパ外交史を中心として明らかにする研究を行った。これは、直接的には日本国際政治学会からの報告依頼を受けて行った研究であるが、その準備の過程では、本研究課題のもとですでに実施中であった二次文献の検索・収集・分析などが重要な基礎的作業として大いに役立った。そして、2007年10月27日に福岡国際会議場(福岡県福岡市博多区)で開催された日本国際政治学会2007年度研究大会分科会C-7(理論と方法II)において、「〈国際関係へのアプローチの再検討〉外交史の立場から—戦後ヨーロッパ外交史を中心に—」として研究発表を行ったが、発表およびその際の質疑応答などを通して、本研究課題におけるさらなる先行研究の整理や研究方法の精緻化などに資するところが多くあった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

①小川浩之「イギリス・コモンウェルス関係とPKOの成立と変容—パレスティナ・カシミールからコソボ・東ティモールまで—」『軍事史学』第42巻第3・4合併号、2007年、57-77頁(査読有)

〔学会発表〕(計4件)

- ①小川浩之「ハロルド・マクミランとイギリス政府のヨーロッパ統合政策、1957年～1963年」中部政治学会(名古屋大学)2008年7月13日
- ②小川浩之「≪国際関係へのアプローチの再検討≫外交史の立場から一戦後ヨーロッパ外交史を中心に一」日本国際政治学会(福岡国際会議場)2007年10月27日
- ③小川浩之「『旧コモンウェルス』から『新コモンウェルス』へ一第二次世界大戦後の拡大と制度変化、1945-73年一」イギリス帝国史研究会(京都大学)2006年12月2日
- ④小川浩之「スエズからコンボ・東ティモールまで一PKOをめぐるイギリス・コモンウェルス関係一」日本国際政治学会(かずさアカデミアホール)2006年10月15日

〔図書〕(計3件)

- ①小川浩之「脱植民地化とイギリス対外政策一公式帝国・非公式帝国・コモンウェルス一」北川勝彦編著『イギリス帝国と20世紀 第4巻 脱植民地化とイギリス帝国』ミネルヴァ書房、2009年、25-68頁
- ②小川浩之「第一次 EEC 加盟申請とその挫折 1958-64年一「三つのサークル」ドクトリンの段階的再編一」細谷雄一編『イギリスとヨーロッパ一孤立と統合の二百年一』勁草書房、2009年、122-151頁
- ③小川浩之『イギリス帝国からヨーロッパ統合へ一戦後イギリス対外政策の転換と EEC 加盟申請一』名古屋大学出版会、2008年、404ページ

〔その他〕

- ①益田実、小川浩之、吉田徹、潘亮、宮城大蔵、鈴木一人「イギリスは、モデルたりうるのか一地域統合のなかのイギリスと日本一」『外交フォーラム』第250号、2009年、66-77頁
- ②小川浩之「『旧コモンウェルス』から『新コモンウェルス』へ一第二次世界大戦後の拡大と制度変化 1945-73年一」『イギリス帝国史研究会 Discussion Paper』第3号、2006年、3-8頁

6. 研究組織

(1)研究代表者

小川 浩之 (OGAWA HIROYUKI)
愛知県立大学・外国語学部・准教授
研究者番号：60362555

